

會 務

土木學會誌 第十五卷第四號 昭和四年四月

- 昭和四年二月二十一日役員會を開く、八田副會長、黑河内、近、福田、前川、牧野の各常議員、中山前會長、丹治、村兩主事出席、八田副會長議長席に着き下記事項を決議せり。
 - △本年度春季視察旅行は大阪方面の土木事業の視察並御大禮式場諸設備拜觀を爲すこととし、行程其の他に就ては關西支部と協議すること。
 - △三月中に開催すべき講演會は會員復興局技師森田三郎君に「和蘭に於ける世界的土木事業に就て」講演を依頼すること。
 - △工業會申出に係る「ケルビン」賞牌受領者選出の件は一應調査を要するを以て保留すること。

其の他會務に關する事項

- 同年三月十一日編輯委員會を開く、黑河内編輯委員長、菊池、田中(寅)、平山、山口、山中の各委員、菊池囑託出席し會誌編輯上に就き協議を爲せり。
- 同年二月二十一日土木學會誌第十五卷第二號發行成規の手續を了し同二十三日各會員に配布せり。

各 種 調 査 會 記 事

混凝土調査會

- 昭和四年二月二十五日第九回混凝土調査會幹事會を開く、大河戸委員長、永山幹事長、平山、三浦、中山、菊池の各幹事那須、物部兩委員、北村、石井兩囑託出席、前回に引續き草案第三十一條より第三十五條迄を討議せり。
- 同年三月八日第十回混凝土調査會幹事會を開く、大河戸委員長、永山幹事長、平山、三浦、岡部、鈴木、山中、中山、藤井、菊池(英)、菊池(明)の各幹事、那須、物部、野口、内村、阿部、山口の各委員、北村、白石兩囑託出席、前回保留したる草案第三十二條及第三十三條の修正案に就き再討議を爲し引續き草案第三十六條より第四十一條迄を審議せり。

用語調査會

- 昭和四年三月十五日第六回用語調査會幹事會を開く、中川幹事長、田中(豐)、黑河内、田中(寅)、青木、菊池(英)、萩原、石井、藤井、中桐、中原、菊池(明)の各幹事、那須委員及北村、中川兩囑託出席、前回に引續き撰定用語表に依り調査すべき用語を決定するに當り各提案者より夫々説明を求め土木機械及砂防の兩部に就て協議を爲せり。

○昭四年二月十六日以降三月十五日迄に於て入會を承認し名簿に登録したる者下記の如し
 (○印は轉格者を示す)

會 員			
阿 會 沼 均君	○高 木 義 照君	○内 林 達 一君	
○福 井 瀨君	○吉 田 彌 七君	○藤 原 琢 而君	
准 員			
上 杉 邦 夫君	小 畑 伊 作君	小 野 寺 庸 夫君	
尾 崎 久 助君	○王 達君	加 藤 磯 一君	
加 藤 仙 三 郎君	○佐 藤 九 郎君	橋 本 克 太君	
堀 永 德 太 郎君	山 村 彼 面君	和 泉 三 郎君	
岩 淵 鐵 三君	親 松 武 男君	開 原 文 雄君	
小 林 仁 三 郎君	小 林 義 雄君	後 藤 康 友君	
駒 井 勝 太 郎君	鹽 田 勇君	高 橋 種 臣君	
立 神 弘 洋君	玉 丘 藤 良君	藤 原 武 雄君	
藤 村 豐 治 郎君	堀 越 泰 藏君	○松 井 達 夫君	
松 本 達 次君	宮 澤 太 郎君	森 光 勇 三君	
安 田 卓 治君			
學 生 員			
荒 井 利 一 郎君	綾 龜 一君	内 田 新 吾君	
大 上 信 雄君	大 江 誠 一君	岡 田 岩 雄君	
坂 口 麗 紀 夫君	高 尾 保君	高 橋 俊 二君	
土 本 義 雄君	花 岡 亮君	服 部 高 景君	
東 芳 男君	藤 田 豐君	星 治 雄君	
三 宅 第 三 郎君			

○下記諸氏は退會せられたり

准員 天 野 辰 雄君 小 倉 兼 友君 川 越 温君
 木 戸 義 雄君 原 壯 之君 吉 野 米 吉君

○昭和四年二月十六日以降三月十五日迄に於て寄贈又は交換を受けたる雜誌其の他は下記の如し

寄贈を受けたる分

大泊築港工事報文

1 冊 大泊臨時築港事務所

大泊築港紀念寫真帳

1 冊 同 上

日本ポルトランドセメント業技術會報告第 18 號	1 冊	日本ポルトランドセメント業技術會
試驗研究項目要覽第一號	1 冊	內閣資源局
三菱電機第三號	1 冊	三菱電機會社神戶製作所
國立公園創刊號	1 冊	國立公園協會
日本ポルトランドセメント規格改訂案第19號の1	1 冊	日本ポルトランドセメント業技術會
工業 3 月號	1 冊	大阪工業會
建築業協會月報 2 月號	1 冊	建築業協會
工業と社會第 31 卷第 3 號	1 冊	東京工業會
工學第 3 號	1 冊	東京工業會
工學彙報第 3 卷第 6 號	1 冊	九州帝大工學部
工業之大日本第 62 號	1 冊	工業之日本社
工事畫報第 3 號	1 冊	工事畫報社
セメント界彙報第 205 號及第 206 號	2 冊	セメント界彙報發行所
帝國學士院記事第 4 卷第 10 號及第 5 卷第 1 號	1 冊	帝國學士院
鐵道技術第 3 卷第 3 號	1 冊	鐵道技術社
電氣製鋼第 2 號	1 冊	電氣製鋼研究會
土木建築材料商報第 317 號	1 冊	東洋建材商報社
土木建築資料通信第 169 號	1 冊	土木建築資料通信社
日立評論第 1 號及 2 號	2 冊	日立評論社
滿洲技術協會誌第 6 卷第 30 號	1 冊	滿洲技術協會
日本工學輯報第 6 卷	1 冊	帝國學士院
シビル第 8 卷第 3 號	1 冊	シビル社
交換の分		
衛生工業協會誌第 3 卷第 2 號	1 冊	衛生工業協會
帝國鐵道協會々報第 30 卷 2 號	1 冊	帝國鐵道協會
機械學會誌第 142 號	1 冊	機械學會
建築雜誌第 518 號	1 冊	建築學會
工業要録第 5 卷第 2 號	1 冊	工業資料調查會
電氣學會雜誌第 487 號	1 冊	電氣學會
日本建築士第 4 卷第 2 號	1 冊	日本建築士會
鐵と鋼第 2 號	1 冊	日本鐵鋼協會

日本鑛業會誌第 526 號	1 冊	日 本 鑛 業 會
工政第 112 號	1 冊	工 政 會
工業化學雜誌第 32 編第 3 冊	1 冊	工 業 化 學 會
同上歐文	1 冊	同 上
造船協會雜纂第 83 號	1 冊	造 船 協 會
業務研究資料第 17 卷第 2 號	1 冊	鐵 道 省 官 房 研 究 所

准 員 三 田 善 太 郎 君

准員三田善太郎君は昭和四年二月十六日逝去せられたり本會は謹んで哀悼の意を表す。

寄稿に関する注意事項

- (1) 御寄稿は成るべく本會の原稿用紙を用ひ横書きとすること、原稿用紙は御請求次第送附す。
 - (2) 御寄稿は止むを得ざる場合の外は成るべく本會の原稿用紙 150 枚（本會誌 50 頁）程度とされたし、若し前記頁數を超過する場合は適宜其の程度に縮少を御願ひすることもあるべし。
 - (3) 假名は平假名とし、數字はなるべくアラビヤ文字を用ひられたし。
 - (4) 歐字は特に明瞭に認むること。
n と u, u と v, r と v, a と α, r と γ
其の他頭字と小字とを判然たらしむる事。
 - (5) 原稿は凡て本文冒頭に内容梗概を添附し表題及内容梗概の英譯を併記せられたし。
 - (6) 附圖附表に就ては次の各項に御注意ありたし。
 - (イ) 圖面は其の儘縮寫し得る様にトレーシング・ペーパー、オイル・ペーパー、トレーシング・クロス等とす。
 - (ロ) 凡て墨色を用ひインキ類或は彩色を施さざる事。
 - (ハ) 方眼紙は青罫のものを用ひ（黄色、赤色の罫は使用せざる事）縦横線を必要とする部分には豫め墨線にて之を描き置かれたし。
 - (ニ) 圖表中の文字、數字は特に大きく肉木に書し縮寫したる後明瞭たらしむる事。
 - (ホ) 圖表類は製版の都合上可なり汚損するものと豫め御含み下されたし。
- (7) 寫眞は特に明瞭たるものを送られたし。
- (8) 講演、論說報告の各欄に掲載の分には抜刷 20 部を寄稿者に贈呈するものとし、尙寄稿者の希望に依り實費にて御要求に應ずる事あるべし。
算式其の他の記し方大體標準。
- (1) 本文、文字間に算式を挿入する場合には次の如く記すこと。 a/b と書き $\frac{a}{b}$ を避けること。 $(a+b)/(c+d)$ と書き $\frac{a+b}{c+d}$ を避けること。
- (2) 獨立したる列に算式を記す場合は次の如く記すこと。 $\frac{1}{3}x$ と書き $\frac{x}{3}$ を避けること。 $\frac{1}{2}(a+b)$ と書き $\frac{a+b}{2}$ を避けること。 $\frac{a}{b+c/d}$ と書き $\frac{a}{b+\frac{c}{d}}$ を避けること。
- (3) 千以上の數字は 53 247 000 の如く 3 つ單位に間隔をあけること。
- (4) 名數は次の如く記し括弧の中の様に書くことを避けること。
83.4 尺（八丈三尺四寸），7 吋（七吋），35 錢（三十五錢），13.56 圓（十三圓五十六錢），1~4 時（一乃至四時間），88 326 噸（八萬八千三百二十六噸），1929 年 1 月 1 日（千九百二十九年一月一日）。